

次期長野県食と農業農村振興計画(素案)の概要

第1章 計画策定の基本的な考え方

- 1 策定の趣旨
「長野県食と農業農村振興の県民条例」の基本理念を踏まえ、食と農業・農村の持続的発展を目指し、方向性を指し示す。
- 2 策定年月日
平成30年3月(予定)
- 3 計画期間
平成30年度～34年度(5年間)
- 4 計画の進行管理
毎年度、進捗状況について、食と農業農村振興審議会及び地区部会から意見聴取の上、県議会に報告し公表
- 5 計画の推進
県の取組に加え、市町村、農業団体、食材を扱う事業者の主体的な「参画」と、県民(農業者、消費者、住民)、関係機関・団体の「協働」を基本姿勢として、それぞれが責務・役割をもって一体となり計画を推進

第2章 食と農業・農村をめぐる情勢

【社会情勢の変化】

- 国際化の進展
- 人口減少社会への対応
- 情報収集・発信の多様化と価値観の変化
- 全国的な農業・農村に対する発想の転換
- SDG's(持続可能な開発目標)の取組
- 地球温暖化への対応

【現状と課題】

- 農業者の減少と高齢化が進んでいる
- 農業者の高齢化等に伴い経営の縮小や廃業が進んでいる
- 中山間地等の狭小で不整形な農地の担い手への集積が進んでいない
- 人口減少による食料消費の減少が予測され、価格等への影響が懸念
- 飲食店や旅館など県内実需者の県内農畜産物への関心の高まり
- 両親の共働きなどによる子供の食の貧困化
- 用排水路などの農業水利施設等の老朽化
- 農村住民の減少による地域コミュニティ活動と多面的機能の低下
- 農業者の減少と高齢化により、更なる耕作放棄地の発生が懸念

第3章 食と農業・農村の振興に関する施策の展開方向

基本目標： ※別紙「資料3-2」

基本方向1 次代へつなぐ信州農業

- 1 次代を担う経営体の育成と人材の確保・育成
 - ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成
 - イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保
 - ウ 将来の信州農業を担う新規就農者の確保・育成
 - エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成

- 2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産
 - ア マーケットニーズに応える競争力の高い県産農畜産物の生産
 - イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保
 - ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開
 - エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進

- 3 需要を創出するマーケティング
 - ア おいしい信州ふーど(風土)の取組による県産農畜産物の魅力発信
 - イ マーケットインによる農畜産物の需要創出
 - ウ 世界に求められる県産農畜産物の戦略的な輸出促進
 - エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開

基本方向2 消費者とつながる信州の「食」

- 1 本物を味わう食と食し方の提供
 - ア 産地ならではの食べ方と地域食材の磨き上げ
 - イ 食の地産地消と農産物直売所機能の強化

- 2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案
 - ア 未来を担う子どもたちへの食育の推進
 - イ 地域ぐるみで取り組む食育の推進

基本方向3 人と人がつながる信州の農村

- 1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり
 - ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備
 - イ 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持

- 2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

- 3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

第5章 重点的に取り組む事項(重点プロジェクト)

【プロジェクト1】
次代を担う経営体の確保・育成プロジェクト
・中核的経営体の育成、新規就農者と雇用人材の安定確保への取組

【プロジェクト2】
農業イノベーション推進プロジェクト
・技術革新、ICT、カイゼンの拡大など信州農業を革新する取組

【プロジェクト3】
園芸県長野振興プロジェクト
・皮ごと種なしぶどうや夏秋いちごなど伸びしろのある品目の拡大などの取組

【プロジェクト4】
県産農畜産物の輸出拡大プロジェクト
・県産農畜産物と花きの戦略的な輸出拡大への取組

【プロジェクト5】
食品産業の県産農畜産物利用拡大プロジェクト
・県内食品産業の県産農畜産物の利用拡大などの取組

【プロジェクト6】
コミュニティビジネスによる農村活性化プロジェクト
・定年退職者や移住者など多様な人材の参画による農村コミュニティ活動への取組

第4章 地域別の発展方向

■ 県下10地域ごとの特性を踏まえた将来の発展方向、将来目標、具体的な取組内容を記した地域計画

【佐久】

- 南佐久の大規模露地野菜経営体における外国人材を含む雇用労働力の安定確保
- 農業者の高齢化等による生産の減少が危惧される果樹、花き、野菜の果菜類の担い手の重点確保
- 農産物直売所の機能強化による軽井沢などのホテル等への地元食材を供給する体制づくり

【上田】

- 年間降水量が少なく、日照量が多いという地域の優位性を活かして、耕作放棄地の活用などによるワイン用ぶどう団地の整備
- 何でも作れるという強みを活かして、温泉旅館等へのあらゆる地域食材の供給など農産物直売所機能の強化

【諏訪】

- 野菜の施肥軽減技術の導入など諏訪湖と地域住民に理解される環境にやさしい農業の推進
- 避暑に訪れる都市住民に対する農産物直売所等による交流活動の推進

【上伊那】

- 全国に先駆けて組織化された集落営農組織の人材確保と体質強化による経営発展
- リニア新幹線開通を見据えた農泊による都市農村交流の推進

【南信州】

- 市田柿の生産拡大と、市田柿生産者の経営の強化
- リニア開通を見据えた移住・定住の促進などによる都市住民の農村への誘致

【木曾】

- 御嶽はくさいの作業支援体制の構築と更なる経営改善を推進
- 和牛繁殖センターの利用促進及びET子牛の供給による木曾子牛生産者の支援
- すんきのGI取得により、一層のブランド力向上を図るとともに、木曾地域連携による安定出荷体制の構築を支援

【松本】

- レタス、すいか、ながいも等地域ブランドの生産安定とワイン用ぶどうの生産拡大
- 長果25(シナリップ)や夏秋いちご等の伸びしろのある品目の生産拡大と新規栽培者の確保
- 農産物直売所を核とした旅館・ホテル等への地元食材の供給体制の構築

【北アルプス】

- 酒米の品質向上に向けた栽培方法(深水管理等)の実証、新品種の試作・普及
- マーケットニーズに即した北アルプス山麓育ちの農産物の生産と更なるブランド化

【長野】

- 新規就農者や定年帰農者など多様な担い手によるぶどう、りんご等果樹の生産振興
- 農工商観連携等による果樹を軸とした地域活性化の推進

【北信】

- アスパラガスやきのこ、岳南のりんご・ぶどう等の果樹生産、岳北の良質米生産など地域の強みを活かした生産振興
- きのこの国際水準GAPの取得を推進